

令和３年度第１回相生市総合教育会議会議録

日 時	令和３年５月２８日（金）１３時３０分から１５時００分		
会 場	市役所 ３階 議員控室		
出席者	谷口 芳紀	市長	
	浅井 昌平	教育長	
	萩原 喜樹	教育長職務代理者	
	小西 毅	教育委員	
	栗原 英子	教育委員	
	西田 香子	教育委員	
説明員	玉田 直人	企画総務部長	
	宮崎 義正	教育次長（管理担当）	
	山本 哲也	教育次長（指導担当）	
	佐原 正樹	管理課長	
	木本 博子	学校教育課長	
	桑名 雅彦	生涯学習課長	
	平松 孝夫	体育振興課長	
	横山 和彦	人権教育推進室長	
	富田 大三	管理課副主幹（書記）	
傍聴者	なし		

１ 開会

２ 市長挨拶

今年は、例年になく早い梅雨入りとなりましたが、委員の皆様におかれましては、コロナ感染症を含め健康面には十分ご留意され益々ご活躍されますこと、ご祈念申し上げます。令和３年度第１回相生市総合教育会議を開催させていただきましたところ、全員の皆様にご出席いただきありがとうございます。

令和３年度は、第６次相生市総合計画がスタートする非常に大切な年です。これまでの教育・子育て支援施策、定住促進施策をさらに積極的に進め、総合計画の将来像「いのち輝き 絆ひろがる あいのまち」の実現に向け、市民の皆様が絆を大切にしたまちづくりに取り組んでまいりますので、委員の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

また、現在、コロナ禍において、市民の皆様の不安解消、命と健康を守るため、重症化リスクが高いとされる高齢者の方々から順にワクチン接種を進めさせてい

ただいております。コロナ禍により、世の中は一変しました。市政運営においては過去の取組にこだわることなく、アフターコロナを見据え、変化に機敏に対応し挑戦することで、必ず未来が拓けるものと考えます。

収束が見通せない今のコロナ禍にあって、教育委員会においても、「教育新三本の矢」事業として、ICTの利点である即時性、効率性を活かしつつ従来の血の通った教育施策の展開や、設備面での新たな生活様式への対応、希薄化が懸念される人間関係や絆づくりを重視した施策の展開を進めていただいております。

市としても「地域の子どもは地域で育てる」気運を高めるために、「市民さわやか挨拶運動」に加えて「声かけ運動835」の取組を市内全域で展開し、家庭・学校と地域の連携強化を図ってまいりたいと考えております。

この総合教育会議は、今後の相生の教育について大きな方向性を決定する会議であり、非常に重要な場であります。委員の皆様と忌憚の無い意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

3 協議事項

(1) 相生市の教育に関する重点施策について

ア 令和3年度の重点施策について

管理課長

令和3年度の重点施策については、相生市教育振興基本計画に基づき進めております。令和3年度の相生の教育の主な事業を提出させていただきました。

(管理課より機構順に事業概要説明)

管理課	「相生市教育振興基本計画策定事業」
学校教育課	「相生型ハイブリッド学習推進事業」、「声かけ運動835（ハチサンゴー）推進事業」
生涯学習課	「国内交流事業」、「なぎさりモート事業」
体育振興課	「コロナに打ち勝つ身体づくり教室事業」
人権教育推進室	「コロナ差別を許さない！学びと絆づくり推進事業」、「ケータイ・スマホ教室プラス ウィズ コロナ」

教育次長（管）

以上が令和3年度の主要な事業となります。ここで令和3年度から始まっておりますGIGAスクール構想の学校での一人一台端末及びICTを活用した授業の様子をご覧いただきたいと思います。準備をさせていただいてよろしいでしょうか。

谷口市長

準備の間、暫時休憩とします。

谷口市長

休憩を解きます。

(学校教育課より、スライドにより小中学校の I C T の授業風景等を説明)

管理課長

令和 3 年度の主要な事業については、以上となります。参考に 4 ページには学校教育分野の課室ごとの主な事業一覧、5 ページには生涯学習分野の課室ごとの主な事業一覧を掲載しておりますので、ご清覧お願いします。これらの事業により、教育振興基本計画の推進を図ってまいりたいと考えております。説明は以上です。

教育次長（管）

それでは、ただいまの説明について、ご協議をお願いいたします。ご質問等もあわせて受けさせていただきます。

谷口市長

先ほどの I C T 関連は、幼稚園でも実施しているのか。

教育次長（管）

幼稚園では実施しておりません。

小西委員

子どもが私立の高校に通っていますが、4，5 年前から一人一台端末になっていました。端末になったことで、大きく変わったことは、教科書を持っていかなくなったり、提出物がノートからメールに変わったことでカバンが小さくなったことです。また、授業のスピードが非常に速くなったと言っていました。これは、プリントや板書の時間がなくなることで、一年間のカリキュラムが半年程度で終わる授業スピードになったとのことでした。

これで生まれた時間を別のものに使えるようになるなど、メリットがでているのかなと思ったりします。あとは、発表や協議といったコミュニケーションの部分が弱くなるので、この部分を先生方にうまくやっていただけることを期待しています。

谷口市長

今回のコロナ禍では、学校に行かないで家でリモート授業が多かったですか。

小西委員

大学生は週に 1 回しか学校に行かず、家でリモート授業を受けていました。

萩原委員

先ほどのICTの取組は、今年度スタートですか。

学校教育課長

小学校は3学期から活用を開始し、中学校では3学期末から活用を開始しています。

萩原委員

自分が教員だった時から比べると、授業風景が大きく変わったなと見せていただきました。コロナ禍ということもあると思いますが、やはり、新しい教育活動というのを見直す時期がきているのかなと感じました。

こういった変化にも子どもたちは、敏感で慣れるのが早いと思いますが、従来どおりAIにできないことがあるはずなので、先ほどのハイブリッドの説明のなかでふれあいや絆といったことがありましたので、そこをベースに持ちながら、やっていってほしいとお願いしておきます。

教育長

4月に兵庫教育大学に行く機会がありまして、その時に学長が「見てのとおり学生はキャンパスに全然いません。授業はリモートでやっております。」と言っておられました。こういった教育を受けた学生が教職課程にいて、教員になるので必然的に学校教育のスタイルが変わってくるだろうなと感じました。あと4、5年で学校現場に現れてくるだろうなと思っております。

萩原委員

社会がこういった人間をもとめているのかなと考ええると、課題解決能力や判断力、実行力、共感性といったものは、なかなかAIでは習得できないことだと思うので、そういったことも頭におきながら進めていく必要があると感じております。

谷口市長

他に特にご意見等ないようでしたら、次に進ませていただきます。

教育次長（管）

それでは、「協議事項3（1）のア」について、ご了解いただいたということでしょうか。

市長及び教育委員

了解

教育次長（管）

只今いただいたご意見等を尊重し、令和3年度の事業を進めていきます

4 意見交換

教育次長（管）

続きまして、「協議事項3（1）のイ その他」について説明いたします。総合教育会議は市長と教育委員が、教育に関する諸条件整備や重要施策について協議や意見調整を行っていただく会議となっております。そこで、今後の教育につきまして、まず、教育長職務代理から順に各委員の相生市の教育に関する所感をお聞かせいただき、次に、市長の教育に関する所感をお聞かせいただき、その後、市長と各委員による自由意見交換を行っていただきたいと考えております。それでは、萩原教育長職務代理よろしくお願いします。

萩原教育長職務代理

昨年からコロナ禍になった影響で、私たち教育委員もオープンスクールなど縮小や人数制限といったことで教育現場に行く機会が少なくなりました。なかなか現場を見る機会が減ったというのが実感です。そのような状況のなか、子どもたちがコロナの影響で不登校になっている子どもがいないというのも聞いておりますし、感染防止対策として、新たに自動水栓化も進めていただけるということがありがたいと感じております。コロナの波が次々とやってきて、予断を許さない状況ですので、現場としては緊張感をもって、手洗いなど基本的なことをやっていただきたいと思います。私自身もコロナ慣れがでてきていることがあるので、再度引き締めてやっていただければと思っております。

新たな教育の波がやってきているので、乗り遅れない手だては必要だと思いますのでお願いします。また、人間力を高めるために必要な教育もあわせてお願いしておきます。

教育次長（管）

次に、小西委員お願いします。

小西委員

コロナ禍で学校に行かせていただいたときに先生方が手洗い、消毒などをしっかりしているのを見ると、今、陽性者が広がっていないのは先生方がすばらしい指導をやっているんだと感じています。子どもたちも登下校においても、しっかりした感染対策をしているのを見ますので、教育が行き届いているなと感心していますので、引き続きお願いします。

教育次長（管）

次に、栗原委員お願いします。

栗原委員

事業の確認をさせていただきます。中学校の英検チャレンジ事業というのは、具体的にはどういったものになりますか。

学校教育課長

今年度は、英検 I B A を中学校 3 年生に受検してもらおうと考えております。英検とは違いますが、英検を受検するとした場合に、現状の力を判定するためのものになります。今年度は、3 級から 5 級の力を判定できるものを 7 月に実施する予定としています。

栗原委員

昨年度から小学校に教科としての英語がはじまって、今年度の中学校 1 年生がはじめて英語が引き継がれていると思う。小学校で身につけているべきものを中学校で継続してできているのか、反対に身につけていないことを中学校で対応できているのか、が心配である。また、中 2、3 年生の英語は教科書が大きく変わって、履修していないことがはいつてきていると思うので、子どもたちも不安に思っているので心配している。小学校では、アルファベットは読んで書けるものとされていますが、中学校に入るとまた 1 学期にはアルファベットからはじまる。こういったところで救いきれないものがないように、目指すものがあるのであれば、同じ質の指導をお願いしたい。

あと、小学校の外国語における F L T の活用についてですが、教科になる前と教科になってからの違いを教えてください。

学校教育課長

中学校では、今年度から新学習指導要領が本格実施となっている。それをふまえて、幼小中の一貫教育を進めており、英語についても小中の教諭同士で情報共有しながら、連携をとって進めていこうとしているところです。

F L T の活用については、双葉と中央小学校は英語の専科教諭を配置し統一した指導ができており、F L T とともに連携している。担任が指導している学校についても、F L T と連携しながら、教科になったことをふまえて進めています。

栗原委員

学校訪問でも英語を見る機会がなかったので、ぜひ、次回は見せていただければと思います。

教育次長（管）

次に、西田委員お願いします。

西田委員

授業にパソコンが入ってくると、家で話をしても若者はいいことだという意見になっております。私たちは、対面授業が無くてリモートばかりというのは、何か抜け落ちていくことがあるんじゃないかなと心配がある。社会にでたときには、対人というのが多いので、パソコンを通じて最終的には人が相手なので、パソコンさえあればなんでもできるというものではなく、やはりデジタルとアナログの平衡感覚が必要であると思いますのでぜひお願いします。

人対人で言いますと、伝統文化において歌舞伎役者のその日の舞台では、お客さんののり方に影響されます。拍手が多かったり、声かけのタイミングでその日の舞台が良くなる。こういったことは無観客では感じられないので、私はやはりこのような息を感じたいという思いが強いので、観客がいる舞台を演じたい。子どもたちにもこういった感覚を大事に育てていってほしいと思います。

谷口市長

コロナで日本のIT化が遅れているのがはっきりし、国もデジタル庁を創設して推進している。そのなかで、委員のみなさんがおっしゃっているとおり、デジタルとアナログのバランスが大事だと考えている。

教育次長（管）

それでは、谷口市長よろしいでしょうか。

谷口市長

私は、常々申しておりますが、「まちづくり」の基本は「ひとづくり」にあると考え、これまで「子育て・教育」をまちづくりの重点施策の一つとして市政運営を進めさせていただいております。

そういった視点から、相生市の今後の教育に期待すべき点について、私の考えを3点申し上げたさせていただきます。

まず、1点目は、学校教育分野についてです。コロナ禍において、加速する教育のICT化に対応するため、令和2年度から「ギガスクール構想」に基づくハード整備予算を確保させていただきました。今後は、「ICT機器の利点を活用した学習」の取組を進めていただきながら、従来からの「体験活動を通じたふれあいや絆を重視した学び」を尊重し、両方の良さを活かした取組を進めていただきたいと考えます。また、コロナ差別を絶対に許さないため啓発と学習機会の提供についてよろしくお願いいたします。

2点目は、生涯学習分野において、コロナ禍においても、子どもから大人までが安心して文化芸術やスポーツに親しめるよう「新しい生活様式」を踏まえ、更なる事業の充実をお願いいたします。芸術文化の振興においては、市民の新たなニーズにも対応した「なぎさホール」の設備環境の充実をお願いいたします。また、来年度は相生の文化遺産であるペーロン伝来100周年になります。市としても実施いたしますので、

教育委員会においても、ペーロンを通じた文化振興にご協力いただきたいと思います。スポーツ分野では、コロナ禍で外出自粛が続くなか、市民が楽しく体を動かすきっかけづくりとなるようスポーツ機会の提供をしていただけますようお願いいたします。

3点目は、新たな教育振興基本計画の策定についてです。

今年度は、令和4年度以降10年の新たな教育振興基本計画を策定される年と伺っております。昨今の、ICT化の急速な進展、ウイズコロナへの対応など、新たな社会潮流を考慮した計画のご検討をお願いいたします。また、適正配置の方向性についても十分にご検討をお願いいたします。子どもの数のみならず、地域創生とまちづくりの視点も考慮いただき、地域住民の多様なご意見を反映することができるものとなるようご検討をよろしくをお願いいたします。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症対策は、長期的な対策が必要となります。このような状況下でも、子どもたちが明るく安心して学習が行える対策が必要と考えております。今年度も委員の皆様には、これまでと変わらぬ格段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育次長（管）

ありがとうございます。それでは、先ほどの協議事項も含めまして、自由意見交換を行っていただきたいと思います。

栗原委員

学校で制限がある活動には、こういったものがありますか。

学校教育課長

距離を十分に取ることができない活動については、ステージⅣということもあり制限しています。具体的には、声を出す合唱や体育の身体接触のあるもの、調理実習などがあります。

谷口市長

部活動も実施していますか。

学校教育課長

部活動については平日2時間の実施とし、土日は原則、休止としています。

栗原委員

距離がとれるようであれば、色々と工夫しながら実施していただきたいと思います。

西田委員

最近、子どもたちが挨拶をしっかりとくれるようになった。あいさつ運動はいいものだとあらためて実感しました。

栗原委員

あいさつは大人同士でも気持ちがいいものですので、今後も広げていきましょう。

教育委員次長（管）

今回いただきましたご意見を踏まえ、事務局といたしまして施策に反映すべく検討させていただき、また、関係部課とも協議をし、次回は12月を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、本日の協議事項はすべて終了いたしました。閉会にあたり教育長よりご挨拶をお願いいたします。

浅井教育長 閉会の挨拶

令和3年度第1回相生市総合教育会議を終了